

学びと将来をつなぎ、仲間と共に成長を志す子供が育つ授業づくり

矢川 亮太* ・ 成松 美枝**

Creating classes that connect learning with the future and foster children who aspire to grow together with their peers.

Ryota YAGAWA, Mie NARIMATSU

【要約】成長的マインドセットを育む学級活動の在り方を明らかにするため、3つの柱を設定して研究を進めた。小学校第5学年の児童を対象に授業を実践し、子供の様子やアンケート調査の比較から分析、考察を行った。各教科等の学びと実践を関連付け、なりたい自分を考える事前の活動を設定することや実践全体を通じたポートフォリオを活用し、自分の成長を振り返る事後の活動を設定することの有効性が明らかになった。

【キーワード】学級活動、深い学び、成長的マインドセット、各教科等との関連、ポートフォリオ

I. 研究の概要

1. テーマ設定の意図

Society5.0の実現に向けたAIの発達、医療の進歩や健康意識の向上による「人生100年時代」の到来等、時代の変化と共に、私たちの生き方は多様化し、選択の幅は大きく広がっている。常に自分の人生を見つめ直し、自分らしい生き方を模索していくことが、現代を生きる私たちの使命である。不確実性が高まる現代社会において、困難な状況や失敗から逃げることなく、自分の成長の可能性を信じて、挑戦を楽しみながら努力しようとするマインドセットを身に付けていくことが求められている。

そのような中で、学習指導要領において「キャリア教育の要」として位置付けられている特別活動の果たす役割は大きい。「為すことによって学ぶ」を指導原理とする特別活動は、具体的実践を通して実社会で生きて働く能力の育成を目指し

ている。そのためには、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、「深い学び」を実現していくことが必要である。特別活動における「深い学び」の実現とは、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を実践とし、その学習過程の中で、各教科等の学習で身に付けた知識や技能を働かせ、集団や自己の課題を解決しようとしている姿の表出であると捉える。各教科等の学びを実践の中で活用することで、その学びの意義への理解を深める役割を担っていると言えよう。

前研究では、「集団の中で自分らしい生き方を見いだしていく授業づくり」をテーマとし、なりたい自分に向かう実践の過程で生まれた個々の課題を集団で解決することで、集団の一員としての役割を果たそうとしたり、よりよい自分を目指そうとしたりする子供の姿が見られるようになった。一方で、学級活動(3)の内容において、学級全体で設定した題材の中で目指す姿を考えた

*佐賀大学教育学部附属小学校

**佐賀大学教育学部

ことで、思い描くなりたいた自分が限定的となり、実践に向かう切実感が薄れてしまったことが課題として残った。

そこで、本研究では、子供の自発的、自治的な活動が中心となる学級活動(1)において、強い意志をもってなりたいた自分に向けて努力しようとする「成長的マインドセット」(キャロル・ドゥエック 2016)を身に付けていく学級活動の在り方について探る。各教科等の学びと実践が結び付き、他者との関わりの中で自分自身を見つめながら、更なる成長に向けて前向きに努力する子供の姿を目指していきたい。

2. 「学びと将来をつなげ、仲間と共に成長を志す」とは

「学びと将来をつなげる」とは、各教科等の学びが自分の成長や将来につながっていることを実感している姿と捉える。ここで言う「将来」とは、目の前の活動に対する目標や少し先のなりたいた自分といった短期的な視点であり、その実現の積み重ねが長期的な生き方や夢につながっていくと考える。

また、集団として合意形成を図り、協働して実践することを特質とする学級活動(1)では、他者や集団と関わりながら活動に取り組むことになる。当然、実践に向かう過程の中で、困った状況や努力を要する状況が生まれることがある。一人では解決できそうにない課題を、他者と協働して乗り越えようとする過程でこそ、人は成長する。他者の姿から刺激を受けたり、互いの頑張りや成長を認め合ったりしながら、なりたいた自分に向かって努力する姿を、本研究では「仲間と共に成長を志す」姿と捉える。

II. 研究の内容

学びと将来をつなげるためには、各教科等の学習内容や資質・能力が、子供たちの必要感を伴って実生活で役に立つものだという実感をもつ必要がある。そこで、1年次は、各教科等の学びを洗い出し、実践に活用できるものとして整理して

いく方策を探る【柱1】。2年次は、各教科等の学びと実践がつながり、子供自身が成長の見通しをもつことができるような事前の活動【柱2】と、成長的マインドセットを身に付けることができるような各学習過程における振り返り活動の在り方【柱3】について、授業実践を通じた検証を行う。3年次は、事前と事後のアンケート調査の比較による学級集団としての変容、実践を通じた抽出児の様相やワークシートへの記述から柱の有効性について考察し、研究のまとめとしていく。

柱1 各教科等の学びを整理した「学びの宝箱」

柱2 各教科等の学びを実践につなげる
事前の活動

柱3 成長的マインドセットを身に付けていく
振り返り活動

III. 研究の詳細

本研究における、議題全体を通じた授業づくりの構想を、次頁図1のようにまとめた。

1. 各教科等の学びを整理した「学びの宝箱」【柱1】

各教科等の学びを可視化し、実践や自身の成長と関連付けるために「学びの宝箱」を運用する。「学びの宝箱」とは、各教科等で学んだことから、実践で活用できそうなものを取捨選択し、整理したものである。実践の前に、「学びの宝箱」の中から今回の実践で使えそうな学びを選択する。そして、実践の中で学びを活用する。実践を終えた後、実際にどのような学びが活用できたのかを振り返り、「活用できた」という実感を伴ったり、実践に生きる学びに新たに気付いたりして、「学びの宝箱」を更新する。これらの学習過程を繰り返すことで、各教科等の学びが実践や自身の将来に役立つ価値ある宝として自覚できるようになることをねらっていく。また、学級全体で、どのような学びの宝が活用できたかを交流し、共有したものを掲示することで、個人の「学びの宝箱」を整理する一助としていく。

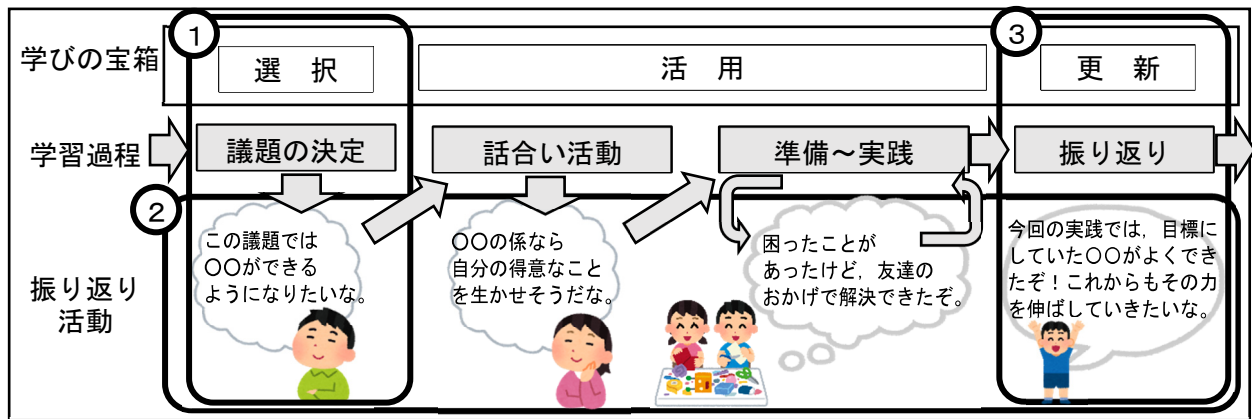


図1 本研究における授業づくりの構想

2. 各教科等の学びを実践につなげる事前の活動【柱2】

学校生活の中で子供たちは様々な思いをもって生活しており、その思いから学級全員で取り組みたい議題が生まれる。この議題に対し、漫然と取り組むだけでは、学びが深まっているとは言えない。そこで、【柱1】で整理した「学びの宝箱」から、どの学びを生かすことができるのかを考える事前の活動を行う(図1-①)。各教科等で学んだことがこれからの実践で活用できそうという見通しをもたせることで、各教科等の学びを意識しながら実践に向かうことができるであろう。その議題を扱う意義と各教科等の学びとの関連を共有した上で、どんな自分になりたいのかを考えるようにする。

3. 成長的マインドセットを身に付けていく振り返り活動【柱3】

(1) 自分を見つめる、それぞれの学習過程における振り返り

自分で立てた目標達成のために努力をしたり、失敗や困難を乗り越えようとしたりする過程で、成長的マインドセットは育まれていく。自身の気付きや学びを自覚し、価値付けることができるよう、それぞれの学習過程ごとに活動を振り返る機会を設ける(図1-②)。事前の活動では、決定された議題に対し、どんな自分になりたいのかという目標を設定し、話し合いや実践においては、頑張ったことやうまくいかなかったこと等を顧みる。これらの振り返りを一枚のポートフォリオに集

約し、活動全体を可視化することで、学習過程における自身の変容や発揮した力に気付くことができるようにする。

(2) 活動の過程を価値付ける事後の活動

自身の努力によって自分が成長できた、課題を解決することができたという実感が、更なる成長を志そうとする原動力となる。活動全体を振り返る場面(図1-③)では、まず、学級全体の成長と課題について考え、一人一人はどのように成長したのかを考えるきっかけとしていく。ここで、3(1)のポートフォリオを用い、課題解決のためにどのような学びを活用したのか、友達や学級の姿は自分にどのような影響を与えたのかという視点をもとに振り返りを行う。全体での交流を通し、互いの活動を認め合いながら、各教科等の学びが実践における課題の解決に役立ったことや友達、学級の力によって自分が成長したことを実感できるようにする。活動の過程を価値付けた上で、これからの自分について考えることで、次の実践や日々の学習でもっと成長したいと意欲を高める子供の姿が見られるであろう。

IV. 研究の実際

1. 議題の概要

(1) 議題

5の2バルーンフェスタで成長しよう

(第5学年 児童数35人令和4年11月~12月)

(2) 議題を立ち上げるまでの経緯

本学級では、年度当初に、学級のみんなでどんなことをしたいかを出し合い、年間の活動計画を立てている。各月のイベントや学校行事とやりたいことを関連付けながら決めていく中で、「11月は佐賀でバルーンフェスタがあるから、学級でもやりたい」という意見が出された。これまでの学校生活の中で、ハロウィンパーティーやクリスマスパーティーは経験しつつも、バルーンフェスタを学級で実践したことがある子供は一人もいなかった。初めての提案に「おもしろそう」「どんなことをするのか」と期待感が膨らみ、学級全体の賛同を得て実施することが決まった。

(3) 議題の意義と流れ (表1)

本議題では、バルーンフェスタを学級全員で楽しむにはどのようにすればよいのか、子供の多様な意見による活動の広がりから、試行錯誤する子供の姿が期待できる。また、理科「空気のあたたまり方」で得た知識を活用して、バルーンを浮かび上がらせるためにはどうしたらよいのか考え

たり図画工作科で身に付けた技能を生かしてバルーンのデザインを考えたりと、各教科等で身に付けた力が生かされることを実感するのに適した議題である。各教科等の学びを総合的に活用して、他者と協働しながら問題の解決に向けて実践していくという点から、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることにつながる。各教科等の学びや集団の関わりと自身の成長を関連付け、各教科等の学習や次の実践への意欲を高めていくようにすることで、「深い学び」の実現を目指した(表2)。

2. 本議題における研究の有効性

(1) 研究の有効性

「学びと将来をつなげ、仲間と共に成長を志す子供」を具現化した姿として、次の点に着目する。
 ア 目標に向かって粘り強く努力し、もっと成長したいというマインドセットを高めている。
 イ 自身の成長のために、各教科等の学びや学級集団の関わりが有用であることを実感している。

表1 議題の流れ

過程 時	主な学習活動 (○)	指導上の留意点 (・)	評価規準 (◆)【観点】
議題の決定	1 ○本議題を行う意義について共有した。 ○各教科等の学びをどのように生かすことができるか見通しをもった。 ○どんな力を高め、どんな自分になりたいか考えた。	・バルーンフェスタについて既存の知識を出し合う場を設け、実践のイメージをもたせるとともに、各教科等との関連付けを図る。 ・これまでのポートフォリオを見返すよう促し、なりたい自分について考えるきっかけとする。	◆各教科等の学びが実践に活用できることに気づき、自分の成長に向けた活動の見通しをもつことができる。 【知・技】
話し合い	2 ○5の2バルーンフェスタで何を行うか話し合った。 ○意見のよさを生かしながら合意形成を図った。	・提案理由に沿って意見を述べるよう促す。 ・話し合いを終えて、改めてどんなことを頑張りたいかを考える振り返りの場を設ける。	◆よりよい活動にするために、互いの意見のよさを生かしながら合意形成に向けて話し合っている。【思・判・表】
実践	課外 ○話し合いで決まったことに従い、役割分担して準備した。	・準備の過程で頑張ったことや課題となったことをポートフォリオに記録するよう声をかける。	◆学級の一員として、よりよい活動にするために、試行錯誤しながら準備している。【思・判・表】
	3 ○準備してきたことをもとに5の2バルーンフェスタを行った。	・それぞれの係で行った準備の過程を価値付け、互いの頑張りが認め合える雰囲気づくりに努める。	◆自分の役割を果たしたり友達と関わったりしながら、活動を楽しもうとしている。【主】
振り返り	4 ○学級の成長と課題について話し合った。 ○発揮した各教科等の学びや自身の成長について、ポートフォリオをもとに振り返り、これからの自分について考えた。	・「発揮した各教科等の学び」「自分に影響を与えた友達や学級の姿」という視点を提示し、自身の成長を実感できるようにする。	◆実践の過程で培われた自分の成長に気づき、これからの生活への意欲を高めている。【主】

表2 本議題で目指す「深い学び」に関わる子供の姿

「深い学び」の姿	本議題における子供の姿
①	議題全体を通じた自分の成長を思い描き、自分の目標や学級として目指す姿を意識しながら粘り強く取り組んでいる。合意形成したことに對して前向きに取り組もうとしている。
②	友達と協働的に関わったり、学級の一員として自分の役割を果たしたり、よりよい自分を目指して成長したりすることについて、各教科等の学びや学級の姿を関連付けて考えている。
③	各教科等で得た知識が、実践の場で活用され、より実感を伴ったものとなっている。
④	自身の成長を実感したり、これからの学習や生活への意欲を高めたりしている。
⑤	各教科等との関連から議題を捉え、自分の高めたい力について考えたり、課題解決のために各教科等で学んだことを発揮したりしようとしている。

表3 子供への質問紙項目

1	努力しなければいけないということは、自分の頭がよくないということだと思う。
2	むずかしいことに挑戦するのは好きだ。
3	失敗したら、はずかしいと思う。
4	人から頭がよいと言われるのが好きだ。
5	むずかしいことやイライラすることはすぐやめたくなる。
6	学ぶことも多いので、失敗しても気にならない。
7	自分には絶対にできないことがある。
8	人は努力すれば学ぶことができる。
9	人は生まれた時から「頭がよくない」「普通」「頭がよい」のどれかに決まっていて、それは一生変わらない。
10	完璧じゃなくても、一生けん命にやるのは気分がよい。

本実践において、研究の内容で示した3つの柱が有効であったかを、学級全体への意識調査と3人の抽出児の活動の様子やポートフォリオへの記述をもとに分析を行う。

(2) 抽出児について

子供たちのマインドセットを把握するために、アニー・ブロック、ヘザー・ハンドレー共著による『マインドセット学級経営』を参考に、表3に示す質問による意識調査を行った。

奇数の項目は、挑戦や失敗を恐れる固定的マインドセットの特徴を、偶数の項目は成長的マインドセットの特徴を表している。「とてもそう思う」から「思わない」までを、4～1で点数化し、偶数項目の合計から奇数項目の合計を引いた値をもとに一人一人のマインドセットを判断した。意識調査の結果を基に、成長的マインドセット、奇数項目と偶数項目が同数であった中位、固定的マインドセットから1人ずつ抽出し、それぞれの子供の活動の様子を追う。表4に抽出児のプロフィールを示す。

表4 抽出児のプロフィール

A児 (成長的マインドセット)	B児 (中位)	C児 (固定的マインドセット)
成長 17・固定 14 《成長3》	成長 15・固定 15 《±0》	成長 15・固定 19 《固定4》
学級での活動に意欲的に取り組んでいる。活動の意義を考えて、目標をもって取り組むことができる。	成長したいという思いはもっているが空回りすることが多く、友達との関わり方に課題意識をもっている。	素直な一面があるが、楽な方に流されがち。集中力にかけ、最後まで続かないことも多い。

3. 各教科等の学びを整理した「学びの宝箱」
【柱1】



図2 個人で記入する「学びの宝箱」



図3 学級で共有した「学びの宝箱」を参考にする子供の姿

本議題において、学びを選択する場面では、議題の内容やこれまでの経験から使えそうなものを考え、自分の「学びの宝箱」(図2)に記すようにした。その際、これまでに学級全体で共有した「学びの宝箱」を参考にする子供の姿が見られた(図3)。実践後、「学びの宝箱」を更新する場面では、次頁表5に示すように、本議題に対して、活用できそうな学びを取捨選択し、実践を通して新たに活用できたと実感したものを書き加えている。「学びの宝箱」を整理する活動を通して、実

表5 本議題で共有した主な各教科等の学び
(見え消しは本議題で活用しなかったもの、波線は実践後に加えられたもの)

国語 ・相手に分かりやすく説明する ・相手をひきつける言葉を選ぶ	書写 ・賞状に字を書く	社会 ・できるだけゴミを出さないようにする	算数 ・見通しをもって時間配分を考える ・図を使って説明する ・得点を集計する
理科 ・実験して結果をもとに修正する ・空気のあたたまり方	音楽 ・BGMを選ぶ	図画工作 ・工作をする ・バルーンデザインを考える	体育 ・チームで協力して競技を楽しむ ・安全に気をつける
家庭 ・裁縫 ・調理	外国語 ・ハロウィン	総合 ・必要な情報を集める	道徳 ・友情・寛容・思いやり

実践で使えたと実感を高めたり、新たに使える学びに気付いたりするなど、「深い学び」に関わる③や⑤の姿が実現できたと言える。

4. 各教科等の学びを実践につなげる事前の活動 【柱2】

(1) 授業の詳細と考察

まず、前議題における学級の成長と課題を確認(図4①)した上で、今回の議題を通して、学級としてどんな成長をしていきたいかを交流し、学級全体で目指す姿を共有した(図4②)。

次に、バルーンフェスタについて知っていることを出し合い(図4③)、本議題と各教科等の学びをつなげる活動へと向かう。グループ、全体で各教科等の学びについて交流(図4④)した後、「学級として目指す姿」、「各教科等の学び」の2つの視点から目指したい自分の姿について考えた(図4⑤)。

授業の終末では、表6波線②のように、議題であるバルーンフェスタに関連して、理科の学びを生かそうと意欲を高めている子供の姿が見られた。また、表6波線④は、学級や自分の課題解決のために、各教科等の学びを生かそうとしている

姿と捉えることができる。図4④の場面で、「学びの宝箱」を用いて、どんな学びが使えるかを交流したことで、「深い学び」に関わる②や⑤の姿が現れたと言える。

(2) 抽出児の学習の様相

A児は、表6波線③のように、学級の課題の解決のために貢献する自分になりたいという思いを語っていた。B児は、表6波線①の発言から、学級の成長を願いつつ、他人任せでなく、自分で行動できるようになりたいという強い決意がうかがえる。これらは、前議題の学びを生かし、集団との関わりの中で自分も成長していきたいと

表6 自分の目指す姿について語る子供の様相

教師：T 抽出児：A, B, C 抽出児以外の子供：S (以下同)
T：今回の実践を通して、どんな成長をしたいですか。
B：①前回のパーティーをもとにして、新たな目指す力が出たんですけど、自分で行動する人が増えるといいなと思っています。それを「増えるといいな」と思うだけじゃなくて、増やすような行動を身に付けていきたいです。
S1：②理科で、気球の仕組みとか上昇気流とかを調べて、仮説や実験などをして、本番ちゃんどできるようにしていきたいと思いました。
A：Bさんに似てるんですけど、③みんながワーワーしてたら自分で注意できるようになりたい。
S2：④学びの宝箱について、前バタバタしてしまったから、計画を立てて、時間配分の表などを作ってみたいです。
C：S2さんに似ているんですけど、⑤学びの宝箱を使いながら、前回自分ができなかった短所のところや長所を伸ばしながら成長していきたいです。
T：前回できていなかったところってどんなところ？
C：盛り上がりすぎて、気付いていないところがあったから、盛り上がることも伸ばしながら自分で気付けるようになりたいです。

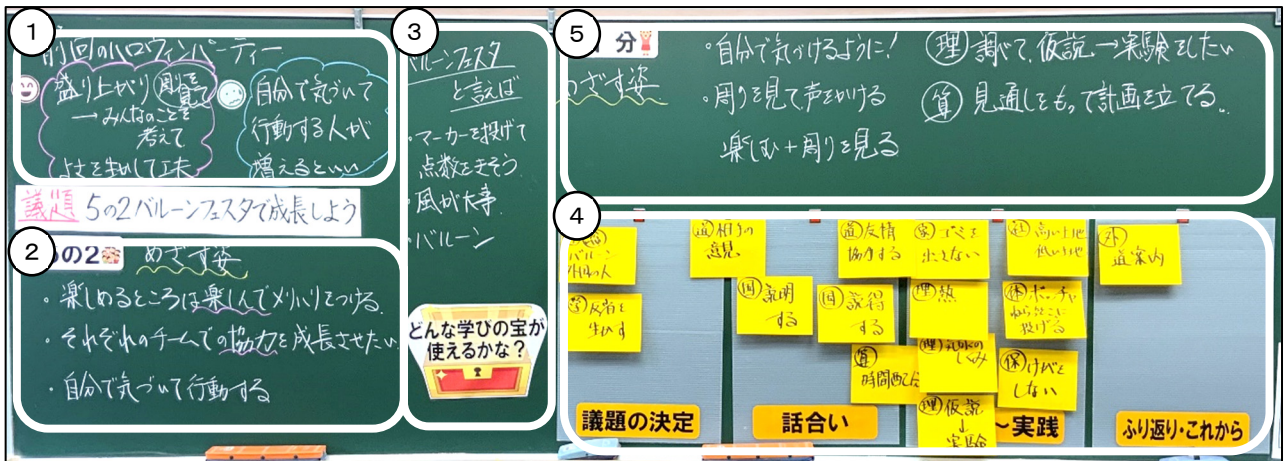


図4 事前の活動における板書

いう意欲を高めている姿であると捉えることができる。C児は、前議題では実行委員として実践の中心となって活動していたが、思うように進行することができなかったという課題を抱いていた。本議題では、前頁表6波線⑤にあるように、その課題を「学びの宝箱」を活用して解決することで成長したいと発言している。前頁図4①②の場面で押さえた学級の姿を自分事として考えたことから、各教科等の学びと自身の成長を関連付けて自分を見つめていることが分かる。

5. 自分を見つめる、それぞれの学習過程における振り返り【柱3(1)】

学習過程における自身の取組状況や変容を可視化するために、ポートフォリオを活用した。「議題の決定」では、この議題を通して目指す自分の姿を記入している(図5①)。「話し合い活動」では、合意形成されたことに対する思いや意気込み等を記入し(図5②)、「準備～実践」では、実際に活動していく中で、頑張ったことや工夫したこと、困ったこと等、随時気付いたことを記入する(図5③)。「振り返り」では、後述する事後の活動において時間を設け、議題全体を通した自身の成長やこれから目指したい自分の姿を記入するよう

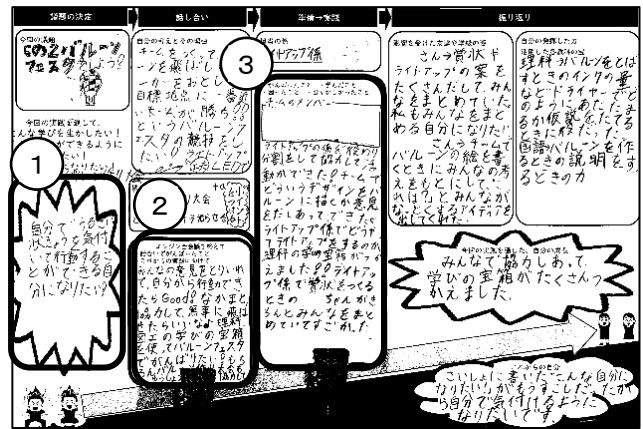


図5 子供が記入したポートフォリオにした。

A児は、担当したライトアップ係において、どのように光を当てればバルーンがきれいに照らされるのか、光源や位置、角度等に思考を巡らせながら活動していた。表7波線⑥の記述から、理科「光の性質」の学びが活かされているのを実感していることが分かる。B児は、景品係となり、競技において優勝したチームに渡す賞品を作ることに励んでいた。実践の過程で「優勝したチームだけでなく、みんなが頑張っているから全員分の賞品を作りたい」と思うようになり、表7波線⑦⑧にあるように、学級全体に思いを馳せながら最後までやり遂げようとする姿が見られた。C児は、前議題の反省を克服したいとの思いから司会

表7 「話し合い活動」「準備～実践」における抽出児の記述

	A児 (成長的マインドセット)	B児 (中位)	C児 (固定的マインドセット)
目指す姿 (図5①)	自分でうるさい状況を気付いて行動することができる自分になりたい!	前回のハロウィンパーティーをもとに、新たなめざす力、自分で気づいてメリハリをつける!	学びの宝箱のものを使いながら、時間配分、自分で気づいて行動するなどの短所を克服して長所も伸ばしたい。
話し合い活動 (図5②)	みんなの意見を取り入れて自分から行動できたらGood! なかまと協力して、無事に飛ばせたらいいな♪理科、図工の学びの宝箱を使ってバルーンフェスタでがんばりたい! もちろんバルーンづくり大会もゆうしようするため、協力して次の生活も活用できたらGood!	気球作り大会でも、協力など、めざす力が身に付けられると思うので、がんばりたい。	1回は発表した。 バルーンがうまく飛ぶために、材料やつくるのに貢献したい。 時間配分、短所、長所をのばしたり、克服しながらがんばりたい。
準備～実践 (図5③)	ライトアップの係を役割分担をして協力して活動ができた! チームでどういうデザインをバルーンに描くか意見を出し合ってきた。ライトアップ係で、どうやってライトアップをするのか、⑥理科の学びの宝箱がつかえました! ライトアップ係で賞状をつくるときのMちゃんがきちんとみんなをまとめていてすごかった。	(がんばったこと) ⑦人数分がんばって作った (学んだこと) ⑧相手をうれしくさせる (困ったこと) わすれ (むずかしかったこと) つくるとき	⑨司会でかまわずに言えたし、バルーンもとんでよかった。デザインがむずかしかった。

進行係に立候補したが、準備を進めるうちにチームでバルーンを作ることの楽しさを味わう姿が見られるようになった。表7波線⑨のように、係としてもチームの一員としても、自分の役割を果たしたことへの達成感を得ていることがうかがえる。これらの姿は、「深い学び」に関わる①や②の姿と捉えることができ、ポートフォリオを用いることで、その姿を価値付けることにつながった。

6. 活動の過程を価値付ける事後の活動【柱3(2)】

(1) 授業の詳細と考察

事前の活動で共有した「目指す学級の姿」を想起した上で、実践後に行ったアンケート結果を提示することで、学級と自分はどのような点で成長し、どんな課題が残ったのかを具体的に考えるきっかけとした(図6①)。まず、学級全体の成長と課題について実行委員の思いを語り、それに意見を加える形で、学級の成長と課題をまとめていった(図6②)。次に、学級として成長した点、次につなげたい課題を明らかにした上で、自分の成長について「自分に影響を与えた友達や学級の姿」「活用した学びの宝」の2つの視点で振り返り、全体で交流した(図6③)。友達の頑張りを認め合ったり、活用できた「学びの宝箱」について共有したりしながら、実践全体を価値付けた。最後に、本議題における自分の成長をまとめ、これからの自分について考える時間を設けた(図6④)。図6表③の場面では、表8波線⑩のように、友達の姿から刺激を受け、新たに挑戦したいことを見いだす姿が見られた。また、困難な状況でも諦めずに

表8 自分の成長の要因について交流する子供の様相

S3:担当が採点をするんですけど、紙に書いて計算するのは大変で…⑩友達がエクセルで計算の機能を使っているのがすごかったです。自分も作れるようになりたいと思いました。

～中略～

S4:インストラクターの働きもすごかったと思って。そもそも計画が始まる前から実行委員の人たちが実験して飛ばし方を考えてくれていたんですよ。でも火を使えないってなってどうすればいいか悩んで、ドライバーで飛ばすってなったけど、今度は袋が重くて飛ばなくて…。⑪何回も壁にぶつかっても、皆で考えて何度もやるっていう、諦めないでちゃんとやっているのがすごいなと思った。

S5:理科の学びで、火を使う予定だったけど、使えなくなってドライバーになって、熱風で飛んでいたのが、⑫火じゃなくても温かいものであればやっぱり飛ぶんだということが分かった。

挑戦し続けることのよさを感じ取っていることが、表8波線⑩の発言から読み取れる。これらは、学級集団との関わりの中で、自分の目指したい姿を見だし、その実現への意欲を高めている姿だと捉えることができる。さらに、表8波線⑫のように、各教科等の学びという視点を設けたことによって、理科の学習で学んだ「温かい空気は上に行く」という知識が、より実感を伴ったものとして理解を深めていることが分かる。

(2) 抽出児の学習の様相

A児は、授業の中で様々な教科の「学びの宝箱」が有効に活用できたことを語っていた。次頁表9波線⑬にあるように、各教科等で学んだことを実践で生かしたことで、自身の成長と捉えている。その反面、事前の活動で考えたなりた自分が薄れてしまったことを反省に挙げつつ、これか

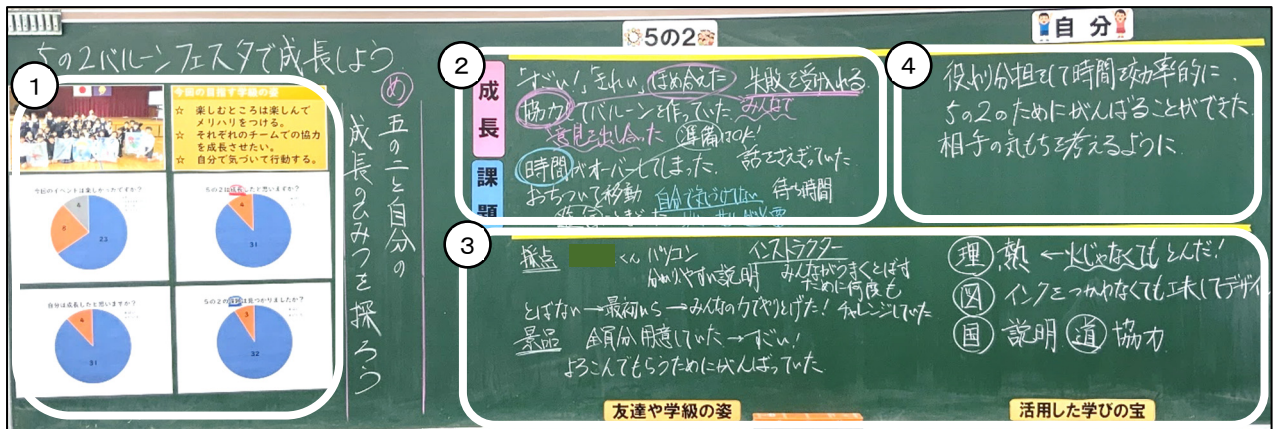


図6 事後の活動における板書

表9 「振り返り」における抽出児の様相

	A児 (成長的マインドセット)	B児 (中位)	C児 (固定的マインドセット)
自分の成長	みんなで協力しあって、 <u>⑬学びの宝箱がたくさんつかえました。</u>	思いやり、うれしく、楽しく笑顔にさせること。そして5の2の課題を改善するための努力!	時間はいぶんや自分で気づけなかったけど、係としてもチームとしても「手伝う」ということがよくできたと思った。
これから	<u>⑭さいしょに書いた「こんな自分になりたい!」がもうすこしだったから自分で気付けるようになりたいです。</u>	もっともっと6年生になるために <u>⑮学びの宝箱を使って成長したい!</u>	<u>⑯バルーンフェスタでは自分で気づく、時間を気にするなどができなかったが、クリスマスパーティーでは、この短所を克服したい。</u>

らの生活につなげようとしている (表9波線⑭)。B児は、「いいなと思う友達や学級の姿はあったか」という教師の問いかけに対し、「前回のパーティーで課題がいっぱい出た。そういうのを『学びの宝箱』のキーワードを使って、課題を改善していたから、それはいいなと思った。」と答えている。学級の課題解決のために、各教科等で学んだことを生かす姿に価値を見いだしていることが分かる。表9波線⑮からも、「学びの宝箱」を使うこと、つまり各教科等の学びを生かすことで自分を成長させたいという思いを高めていると言える。C児は、反省点を記述しているものの、次の実践への意欲を高めていることが表9波線⑯からうかがえる。また、授業後のインタビューでは、「前はあまり人の気持ちを考えないというか、自己中心だったが、今回は相手のことを思ってきたかなと思った」と答えている。友達や学級と関わっていく中で、自分なりの成長を感じ取っている姿と捉えることができる。「活用した学び」や「友達や学級の姿」という視点を示したことで、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら、「深い学び」に関わる④の姿を実現することができたと言える。

7. 子供の変容

(1) 学級全体から

意識調査の結果を図7に示す。固定的マインドセットが低く、成長的マインドセットが高い状態である図7□部に着目すると、議題前(4月)は7人であったものが、議題後(12月)は11人に増えている。全体的に見ても、議題前(4月)は散らばっていたものが議題後(12月)は右に推移していることから、学級全体として成長的マインドセットを高めていることが分かる。これは、学級で一つの目標に向かって活動することで、一人では困難なことも他者と協働することで成し遂げることができることを実感したり、自分の頑張りを認めてもらえたりした経験を積み重ねたことが、自分の成長に前向きに向かう姿勢を育む上で効果的であったと捉えることができる。また、実践を通じた自分の成長のために役立ったものを問うたアンケートの結果を、2つの視点で整理したものが表10である。この結果からも、集団

表10 自分の成長に役立ったもの

記述あり○ 記述なし×	各教科等の学び		計	
	○	×		
学級・友達	○	28人 (A児・B児)	4人 (C児)	32
	×	2人	1人	3
計		30	5	35

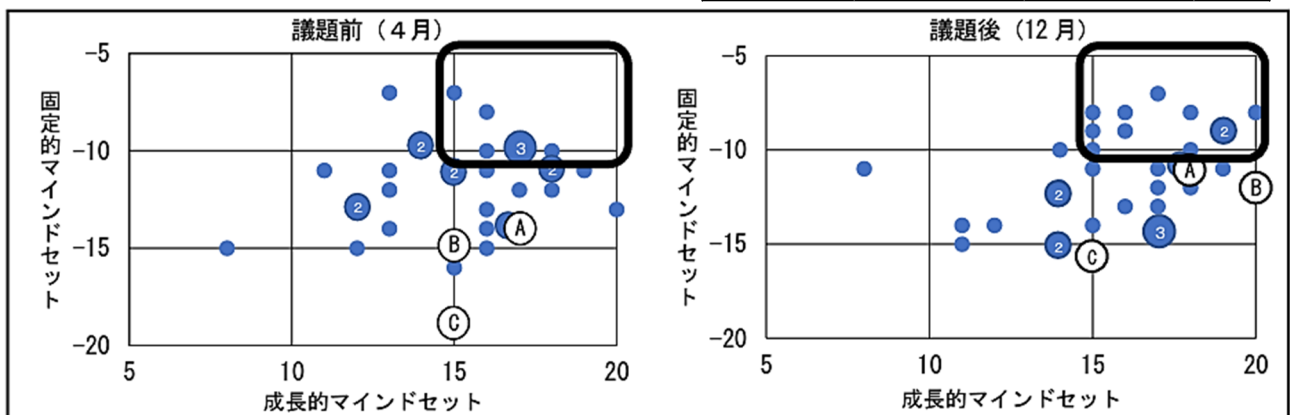


図7 学級全体の子供のマインドセットの変容 (○の中の数字は人数, A, B, Cは抽出児)

表 11 抽出児のマインドセットの変容

A児 (成長的マインドセット)		B児 (中位)		C児 (固定的マインドセット)	
4月	12月	4月	12月	4月	12月
成長 17 → 成長 18		成長 15 → 成長 20		成長 15 → 成長 15	
固定 14 → 固定 11		固定 15 → 固定 12		固定 19 → 固定 16	
《成長 3》 → 《成長 7》		《±0》 → 《成長 8》		《固定 4》 → 《固定 1》	

活動や「学びの宝箱」の運用を通して、学級集団との関わりや各教科等の学びを自分の成長に役立つものとして実感していることが分かる。

(2) 抽出児から

3人の抽出児とも、固定的マインドセットの数値が下がり、成長的マインドセットの傾向が高まっている(表 11)。上述したアンケートによると、A児は、自分の成長に影響を与えた要因として「学びの宝箱」と「友達」の存在を挙げている。表 10 からも各教科等の学びと学級集団との関わりが自身の成長に有用であることを実感していることが分かる。B児は「友達同士の関わり」を挙げている。友達のために頑張って準備したことが、事後の活動の交流の中で友達から認められたことが大きく影響していると言える。C児は、学級みんなの力で課題を解決して実践を成功させたときに、自身の成長を実感したと記述している。集団の一員として仲間と協働しながら活動したことで、自身の可能性が広がり、あきらめずに努力することの大切さを味わうことにつながった。

V. 研究の整理

1. 研究の成果

- ・ 「学びの宝箱」を運用し、教科横断的な視点をもって実践に取り組み、各教科等の学びと自分の成長を関連付けるようにしたことで、各教科等で得た知識が実践で生かされたものとして、より実感を伴ったものとなった。
- ・ 事前の活動において、各教科等の学びについて見通しをもち、「こんな自分になりたい」という目標を設定することで、課題解決のために各教科等で学んだことを生かそうとする子供の姿が見られた。

- ・ 学級活動(1)における実践の中で、「活用した各教科等の学び」や「友達や学級の姿」を価値付けつつ自身の成長を振り返ったことで、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら成長的マインドセットを涵養することができた。

2. 今後の展望

学級活動(1)における教科横断的な学びについて研究を深めてきた。各教科等の学びが生きたものとして働くためには、各教科等で学んだことと実生活における実践との結びつきを強く実感することが肝要である。今後は、各教科等の学びと学級活動(2)(3)における題材を関連付け、自身の成長のために切実感をもって意思決定に向かう授業づくりの方策について探っていきたい。

【主な引用・参考文献】

- ・ 文部科学省 2018 『学習指導要領解説特別活動編』 東洋館出版社
- ・ 日本特別活動学会 2019 『三訂 キーワードで拓く新しい特別活動』 東洋館出版社
- ・ 田村学 2017 『カリキュラム・マネジメント入門』 東洋館出版社
- ・ キャロル・S・ドゥエック 2016 『マインドセット「やればできる!」の研究』 草思社
- ・ アニー・ブロック, ヘザー・ハンドレー 2019 『マインドセット学級経営』 東洋館出版社